

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2019年10月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第608号

私が、初めて日本クリスチャン・アカデミーの活動に参加するようになったのは、1985年頃であった。関西セミナリーハウス運営委員の嶋田啓一郎氏の推薦により、運営委員に加えて頂いた。1989年に鳴海元、竹中正夫氏らの呼びかけにより、「これからの研究と教育を考える会」が発足すると、その事務局が関西セミナリーハウスに置かれたので、その運営委員である私が、その例会のお世話をすることになった。例会は年4回様々な分野の教員を発題者に迎え、研究と教育のあるべき姿について議論した。京都大学工学系の教授職にあった私にとって、他大学の他分野の教員がキリスト者として自分の専門分野とどう向かい合っているかに触れることは、刺激的であった。毎回100人以上に案内を出したが、参加者が20名を越えることはなかった。この会は15年間続いたが、参加者の高齢化により2004年の第58回をもって閉じられた。

2003から2004年にかけては当財団が、財政的に大きな困難を抱えた時期で

あった。そこで組織改革が行われ、財団本部の下に、関西セミナリーハウス、関西セミナリーハウス活動センター、関東活動センターの3つの部門を置き、それぞれが切り詰めた予算の下で事業を展開することになった。それに伴い、私は関西セミナリーハウス活動センター運営委員長に任せられた。私の課題は、当財団でしか発信できないメッセージを混迷する社会に向けて発信することであった。それまでに同活動センターでは、倫理、宗教、医学の専門家らにより「生命の意味研究会」がまた小

共に34年歩み来て クリスチャン・アカデミーと

関西セミナリーハウス活動センター運営委員

小久保 正



中、高校の社会科学科の教員らにより「開発教育セミナー」が育てられてきていた。これらは当活動センターを代表するものであり、その成果も公開されていたので、継続が期待された。

折しも、脳死、臓器移植、出生前診断、ES細胞などの生

命科学の先端技術がどんどん医療に取り入れられ、人の命の重さが軽視される恐れがあった。そこで、生命操作が人間の命に対して持つ意味を考える継続的プログラム「いのちの意味を問う」を2005年に発足させた。次いで、多くの人が高齢迄生きられるようになり、若い世代も高齢者もこの時代をいかに生きるかに戸惑いを覚えるようになったので、両者が補い合って豊かに生きる道を探る継続的プログラム「人生のあした(朝)と夕べをいかに生きるか」を2005年に発足させた。

さらに第二次世界大戦とその後の困難な時代を様々な課題を担ってキリスト者として生きてきた人々が第一線を退く時を迎えたので、その歩みを総括し、次の世代が受け継ぐべきものを考える継続的プログラム「修学院キリスト教セミナー」を2006年に発足させた。

これらのプログラムを進める中で、この財団は何を目指すかを明確にし、プログラムはそれに合わせて絞られるべきだと思われた。そこでシュペネマン理事長(当時)の下に、東西活動センターの意見をもち寄り、2006年に次の言葉で始まるアカデミーの理念を纏め上げた。

「アカデミーは、キリスト教の社会に対する奉仕の一つの姿である。ゆえにアカデミーは、社会と人々の持つさまざまな価値の多様性を尊重しながら、正義、平和、いのちが尊ばれる社会の実現を目指す運動である」

一方財団は、法人法の改正により、2013年から公益財団法人としてあらためて出資することになった。これは、本財団がキリスト教のためではなく、世のためにあることをあらためて確認したことを意味する。本財団は、その名前に、「クリスチャン」を冠しているが、それはキリスト教を広めるためではなく、「神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして人間と同じ者になられた」キリストに倣って、世に仕えるためである。先に定めたアカデミーの理念は、この新財団の理念を先取りしたものと言える。新財団発足に合わせて、私は、財団代表理事と関西セミナーハウス活動センター運営委員長を兼務することになった。

以後当財団の活動は、公益性を重んじ、すべての人に開かれたものであることを意識したものになった。これに伴い関西セミナーハウス活動センターのプログラムは、いのち、福祉、社会のカテゴリーに分かれた修学院フォーラム、開発教育セミナー、お茶と宗教のプログラムなどの形で展開されることになった。その結果いのちに関するプログラムは、「いのちの意味を問う」を継承し、iPS細胞やゲノム編集、認知症や終末医療などの問題も含めて2005年以来2018年までに50回に及んだ。福祉に関するプログラムは「人生のあるした(朝)と夕べをいかに生きるか」を継承し、自死や障がい者差別、子どもや女性の貧困の問題も含めて2005年以来2018年までに35回に及んだ。社会に関するプログラムは、「修学院キリスト教セミナー」を継承し、教育、核兵器廃絶、戦争などの問題も含めて2006年以来2018年までに47回を数えた。社会に関しては、2011年のフクシマ原発事故を契機に、原子力発電を基本に立ち返って考える一泊二日のプログラムを2012年に立ち上げ、2019年に第7回を数えるに至った。その最初の2回の記録はすでに刊行されている。開発教育セミナーは、人権、平和、環境などの地球的課題をテーマとし、持続可能な開発をキーワードに1989年以来毎年

6回開催されてきた。これらいずれのプログラムにおいても、発題講演は参加者以外の人にも聞いて欲しいと思われるものであった。そこで多くの場合、発題者に録音して、文字に起こすこと的了解を得ていた。しかし、未だその大部分は録音機の中に眠ったままである。せめてそれらを整理して、誰でも聞ける声のライブラリーの形に出来ればと思う。

ともあれ私は、財団代表理事としての務めも、活動センター運営委員長としての務めもこの春で退いた。私がこれらの務めにある間願ったことは、当財団の活動が、日本の社会に無くてならぬ足跡を記すことであつた。しかし顧みすことは難しい。

ただし当財団は、創立以来60年近くもその活動を途絶えることなく継続させてくることが出来た。これは、小さなことではない。それは、このアカデミーの理念に共鳴し、プログラムに参加し、賛助会費や寄付金の形をもってこの財団を支えて来て下さった方々の熱き思いによるもの

である。第二次世界大戦後東西に分断されたドイツでは、長年に亘る辛抱強い祈りと対話の積み重ねが、ついに絶望的に見えた堅固な東西を分かたつ壁を倒壊させ、統一をもたらしたのだつた。今年は、それから数えて丁度30年目である。この日本でも、祈りをこめた真摯なはなしあい、いつの日か正義、平和、いのちの尊ばれる社会の実現に資することを期待したい。

私が、関西セミナーハウス活動センターの運営委員長の務めに就いたのは2003年に、京都大学を定年退職し、中部大学へ移った時であつた。そのため私は、週日は京都を離れて遠隔の地に留まらねばならなくなつた。それでも運営委員長が務まるのかと危ぶまれた。しかし、週日の夜人影絶えた大学の单身赴任寮で一人過ごす時間は、静かに本を読み、思索を深める時を与えてくれた。この時を通して私は、人はどこまでも自分の支配権を拡大して止まない存在であること、しかし同時に人は、自分に不利益なことも引き受けて、他の人と繋がり合い支え合つて、一人も漏れることなく共に生きることを通して初めて、安らぎと喜びを見出し得る存在でもあることを学んだ。それは土曜日に行われる活動センターの運営委員会や、プログラムへ参加するための良き備えとなつた。このような豊かな体験を中部大学在籍中の11年を越えて16年間も持たせて戴けて幸いであつた。

(京都大学 中部大学名誉教授)

修学院フォーラム
「エネルギーを考える」第8回
核に依存しない世界へ向けて
2020年1月12日(日)~13日(月・祝)

発題1
「ソーラーシェアリングと有機農業へのフクシマからの挑戦」
講師：近藤 恵
(合同会社 AgroKraft 代表社員、環境エネルギー政策研究所福島事務所長)

発題2
「再生可能エネルギー100%の国を目指して」
講師：牛山 泉
(足利大学理事長、大学院特任教授)

企画：木村 護郎 クリストフ
(上智大学教授)
小久保 正

関東活動センター

●2019年度 聖書講座
〈新しい聖書の学び〉

「マルコ福音書をジツクリと読む」(第2期全10回)

講師 日本フェミニスト神学・宣
教センター共同ディレクター 山口 里子さん
2019年4月〜2020年2月(8月休会)第2火曜
会場：早稲田奉仕園スコットホール222
共催：早稲田奉仕園



山口里子さんによる「マルコ福音書をジツクリと読む」第2期。今年度の終了は5章20節までの予定、まさに「ジツクリ」ペースで読み進めています。

昨年度の終了時に受講者の方々にアンケートを実施し、その一項目に「受講の動機・理由について」をお尋ねしました。マルコ福音書への関心ということのほか、教会の説教で語られるのと違う読み方を学びたい、歴史のイエス

をもっとよく知りたい、山口里子さんの聖書の読み方や自由な学びに共感などの回答が目立ちました。受講者はこれまでも聖書に親しまれてきた方が大半、教会の礼拝に出席されている方も少なからずおられるかと思えます。この講座への期待の裏返しには、教会では、語られる規範的？な聖書理解だけでは満足できなかったり(今ふうに言うところ「響かない」となるのでしょうか)、聖書の学びに不自由さを感じるといふことがあるのでしよう。その思いの中心には、「イエスが語ったことの真意(講座案内のリード文より)」、福音書記者たちや教会での解釈というフィルターを通す以前の、できる限り生

の?イエスが語りかける声を聞きたいとの欲求があるように思われます。私自身はクリスチャン家庭に生まれ育ち、子どものころから毎週教会に行っている「ガチクリ」に分類される者かと思いますが、この講座にて生のイエスへの一層の興味もさることながら、実生活で彼と出会うについに「この人はキリスト」と信

じてしまった最初の人々―新約聖書もキリスト教会もまだなかったころ―の気持ちにあらためて思いを巡らしていただきます。
この講座が、教会や信仰とはまた別のところで、聖書のそしてナザレ人イエスの魅力を紹介する機会となることを願っています。
(報告：西川嗣夫)

関西セミナーハウス活動センター

●2019年度 修学院フォーラム「社会」第2回
〈平和を考える2〉

「憲法9条と自衛隊―両立か対立か―」

講師 編集者・ジャーナリスト、「自衛隊を活かす会」事務局長 松竹 伸幸さん
2019年7月27日(土)



キリスト教平和主義以外にも、この世では平和思想が展開されている。今回は「自衛隊を活かす会」事務局長の松

竹先生に、「かもがわ出版」のジャーナリスト(編集主幹)として、またかつて日本共産党政策委員会安保外交部長として活躍された経験を活かし、過去12年間の出版活動から「憲法9条と自衛隊(両立か対立か)」と題して、具体的にそして理路整然とご講義いただいた。
憲法9条を厳密に読めば、自衛隊は違憲ではない。憲

法学者の63%が違憲の立場をとる(2015年)。裁判所は「統治行為論」をもって、自衛隊そのものの司法判断を下さず、主権者国民に判断を委ねている。解釈改憲を重ねるなか、今や国民は「国民の生命と国家・憲法」体制の存立を守る自衛隊の存在を容認し、司法は自衛隊の活動の違憲・合憲を判断するに過ぎない。そうすると、9条を文字通り死守するだけでなく、9条の理念と精神を廃棄することなく継承し、「専守防衛」に徹した自衛隊を活かす道を探るしかない。それが「改憲的護憲論」である。
議論は、さらに日米安保の(衡平と平等を欠いた)地位協定の問題にも及んだ。時間の足りない質疑応答ではあつたが、一つ一つの質問に的確に回答してくださり、実りある充実した一時となった。
やはり外交・安全保障政策のプロとしての蘊蓄と、市民運動のフィクサーとしての力量、さらに歴史形成能力の高さを垣間見た。何よりも、ジャーナリストの神髄を拝見させていただいた。

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**2019年度聖書を読む講座**

「上林順一郎牧師と一緒に聖書を読もう
—この時代の中で、聖書からのメッセージを読み解く—」

第1期「イエスの教えと生きざま
～福音書から」

講師：上林 順一郎さん

日時：②10月23日(水)、③11月27日(水)14:00～16:00(全5回)

会場：早稲田奉仕園セミナーハウス101号室

参加費：1,000円/学生500円

共催：早稲田奉仕園

新しい聖書の学び「マルコ福音書を
ジックリと読む」(第2期)(全10回)

講師：山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：⑦11月12日、⑧12月10日
火曜18:30～20:00

会場：早稲田奉仕園スコットホール222

参加費：1,200円/学生500円

共催：早稲田奉仕園

■**2019年度関東フォーラム 宗教対話I**

「日本キリスト教史を読む」Ⅲ(昭和篇全7回)

講師：戒能 信生さん(日本基督教団千代田教会牧師)

東 西 南 北

◎**関西セミナーハウス**

矢崎 剛、フロント(囑託)、10月1日付で着任しました。

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
 関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
 関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
 関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
 代表理事 中村 信博

本部事務局
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
 TEL 075-711-2147
 FAX 075-701-5256

関東活動センター
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館1F
 TEL 03-3207-6198
 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/
 関西セミナーハウス活動センター
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
 TEL 075-711-2115
 E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
 関西セミナーハウス活動センター
 TEL 075-711-2117
 E-mail:office@academy-kansai.org

第6回「バルトの翻訳と平和運動を担った井上良雄」

日時：11月14日(木)14:00～16:00

第7回「隅谷三喜男の生涯とその人格的信仰」

日時：12月12日(木)14:00～16:00

会場：早稲田奉仕園セミナーハウス101号室

参加費：1回500円

■**2019年度関東フォーラム 宗教対話V**

第5回 柏木義円公開講演会(共催)「柏木義円とその家」

講師：市川 浩史さん(群馬県立女子大学文学部教授)

日時：11月9日(木)14:00～16:30

会場：日本キリスト教会館1階

参加費：1,000円/学生500円

主催：柏木義円研究会

■**2019年度 研究会**

「さらに豊かな礼拝のために～言葉を届けるトレーニング」(全10回)

講師：友野 富美子さん(日本キリスト教団吉祥寺教会担任教師)

日時：⑥11月19日、⑦12月17日
火曜18:00～20:00

会場：日本基督教団巣鴨ときわ教会

参加費：1回1,200円

■**2019年度関東フォーラム今日的課題II**

「ジャーナリストがその本音を語る」第2回「佐々木宏人さんに聞く著書『封印された殉教』について」

講師：佐々木 宏人さん

日時：11月29日(金)18:30～20:30

会場：カフェスナック ViA(東京都新宿区早稲田2-3-21)

参加費：1,500円(ワンドリンク付き)

◆**関西セミナーハウス**

■**月釜 清心会**

日時：11月10日、12月8日
日曜9:00～15:00 受付

於：関西セミナーハウス

年会費：4,000円、臨時会費1,000円

■**2019年度もみじまつり**

茶席3席、邦楽席(箏演奏)
「佐々木真士 日本画展— ガンジス河を巡る—」

「森の音 地球の音 心の音～民族楽器によるファミリーコンサート」

演奏とお話：ロビン・ロイドさん(民族楽器奏者、音楽セラピスト)

日時：11月23日(土・祝)
9:00～16:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：入館券(抹茶2席、お弁当、コンサート)

前売3,500円、当日4,000円(若干数)

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2019年度お茶のこころと宗教のこころ**

「聖書をいっしょに読みましょう」(全8回)

座長：榎本 栄次さん(日本基督教団牧師)

日時：⑦11月11日(火)、⑧12月2日(火) 13:30～16:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：1,500円 学生500円

■**2019年度開発教育セミナー**

第4回「忘却を乗り越える～足尾鉾毒問題とフクシマ」

講師：菅井 益郎さん(渡良瀬川研究会代表)

日時：10月26日(土)16:00～27日(日)12:00

第5回「在日コリアンの歴史から学び、未来を考える」

〈フィールドワーク 八瀬・岩倉エリアあり〉

講師：水野 直樹さん(元京都大学教授・同志社大学非常勤講師)

日時：11月30日(土)12:50～12月1日(日)12:00

集合：叡電「出町柳」駅改札前

会場：関西セミナーハウス

参加費：10,500円(1泊2食込)、京都市宿泊税200円別

フィールドワークのみ1,000円

賛助会費・寄付金報告

2019年9月1日～9月30日(順不同・敬称略)

◆**関東活動センター**
 神学生プログラム寄付金

日本基督教団長岡京教会 10,000

◆**関西セミナーハウス**
 寄付金

大原 松雄 10,000
 日本ボンヘッファー研究会 10,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**
 賛助会費

手銭 秀夫 20,000
 濱田 真奈美 5,000
 南 和子 10,000
 關岡 一成 5,000
 山本 知恵 5,000

中上 和子 5,000
 田沼 大典 5,000
 吉中 直子 5,000
 匿名 5,000

寄付金

梅山 猛 10,000
 金山 顕子 3,650
 坂本 登 5,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**
 賛助会費

中島 健二 10,000
 笹部 一正 5,000
 最上 光宏 3,200
 山崎 和明 3,040
 山本 知恵 5,000
 匿名 10,000

以上感謝をもってご報告申し上げます。